



実用新案登録願

昭和51年8月17日

特許庁長官

片山石郎

適

1. 考案の名称

エタイガンペン
液体含浸ペーパーの取組装置

2. 考案者

住所

神奈川県横浜市神奈川区3丁目21番地の2

氏名

岩野賢弘

3. 実用新案登録出願人

住所

東京都墨田区境通3丁目3番26号

(095) 蟹崎株式会社

氏名

代表者 蟹崎洋二

4. 代理人

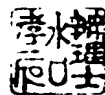
住所

大阪市北区野崎町76番地

関西フェルトビル

氏名

(6180) 弁理士 水口孝一



5. 添付書類の目録

(1) 明細書

51. 8. 19

(3) 願書副本

1通 出願第二書
1通 申請書

(2) 図面 1通

(4) 委任状 1通

51 110337

53-28043
方 式 香

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1 考案の名称

液体含浸ペーパーの取出容器

2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 化粧水等の液体を含浸したペーパーの容器に於て、全体を底板、胴体、上蓋の3部分より構成し、可撓性樹脂より成る底板は周縁部に溝を設けて、胴体の下縁と気密に嵌合するようにし、胴体はその上部に天井板を設け、これにペーパー取出し口を開け、該取出口周縁から適宜の距離の外周部にリブを突設したものであり、一方胴体に枢着した上蓋の内面には、前記リブと気密に嵌合し得る、やゝ外方に拡がった周壁を有する可撓性樹脂より成る、皿状嵌合子を突設したことにより、収納物を気密に保持し且つ取出せるようにした、液体含浸ペーパーの取出容器。

3 考案の詳細な説明

本考案は新規なティッシュペーパー取出容器、特に水、化粧水あるいは消毒液等の液体を含浸させた特殊なティッシュペーパー類を、一枚一枚取

出すことが可能で、収納ペーパーを使い終るまで含浸液の蒸発を防止し、最後まで湿潤状態を保ち得るようにしたティッシュペーパー取出容器に関するものである。

従来より湿潤状態にあるティッシュペーパーは密閉包装袋内に内蔵して提供されているが、これでは湿潤状態にあるティッシュペーパーを一枚一枚密閉包装に内蔵せねばならず、その製作には手間がかかり、又包装材料等を加えると非常に高価なものとなり、しかもこのティッシュペーパーを使用せんとするにあたっては、密閉包装をその都度破り捨てなければならず、極めて面倒であるばかりでなく、包装袋自体の後始末にも配慮せねばならないと云う欠点を有している。

本考案はかかる欠点を改良したもので、湿潤状態にあるティッシュペーパーを、一枚ずつ順次取出すことができ、しかも常にペーパーの湿潤状態を保ち得る取出容器を提供せんとするものである。即ちポップアップが可能な状態に折りたたまれ、かつ、水、化粧水あるいは消毒液等の液体を含浸

した積層状のティッシュペーパーを、底板を外した本容器中に収納し、後に容器の下面に底板を嵌合密封する一方、容器本体は、胴体の上部に気密の天井板を有し、これにはペーパーの取出口を設け、次に上蓋は該胴体の上縁部に開閉可能に取付けるが、その内面に前記取出口と気密に嵌合する嵌合子が突設されていて、上蓋部を閉めると、嵌合子と取出口が気密に嵌合して、ペーパーは密閉状態に保たれ、液体の蒸発は防止できるように構成したものである。

図面について本案を説明すると、(1)はティッシュペーパーで、ポップアップ可能に折り畳まれて図のように本案取出容器(2)内に収納される。容器(2)の構造は、底板(3)と容器胴体(4)及び上蓋(5)より成り、底板は可撓性樹脂例えばポリエチレンより成り、その周縁部(6)に溝(7)を有し、容器胴体(4)の下端部(8)と気密に嵌合し、着脱は可能に構成されている。容器胴体(4)は上部に天井板(9)を有し、これは一体成形又は気密取付け、何れの手段でもよいが、その中央部に適宜のペーパー取出口(10)をあ

ける。この取出口の周囲に取出口から適宜の距離の外周部に、可撓性樹脂より成るリブ(10)を形成する。このリブを取出口(10)の大きさより一周り大きくするのは、後述のように使い勝手がよいためである。さて、上蓋(5)は、容器胴体の上縁の1辺例えば(12)に枢着されるか、又は該胴体と薄膜で連結する一体的成形としてもよい。蓋の内面(13)には、前記取出口(10)の外周部に突設したリブ(10)と気密に嵌合し得る、やゝ外方に広がった周壁を有する、可撓性樹脂より成る皿状嵌合子(14)を突設し、上蓋(5)を閉じると、該皿状嵌合部^子(14)の周壁は、自身の弾性によつて、取出口リブ(10)と気密に嵌合するように構成したものである。

/字訂正

本案取出容器は上述のような構成になるものであるから、先ず、液体含浸ペーパー類を容器に収納するには、底板(3)を外してペーパー類を容器胴体内へ収納し、底板を該胴体の下端部(8)に嵌合すればよい。又ペーパー類を取出すときは上蓋(5)を開いて、取出口(10)から取出せばよいが、蓋を閉じると、取出口リブ(10)と上蓋内面の嵌合子(14)とが気

密に嵌合し、ペーパーに含浸した液の蒸発や発散を防止するから、常に湿潤状態を保つため、ペーパーを使用することができるのである。

なお、ペーパー類はZ字状に折り畳まれたものを、上下に接するもの同志折り畳み端を互に噛み合わせて積層し、いわゆるポップアップが可能になっている。従つて一枚のペーパーを取り出すと次のペーパーの先端部が、取出口より少しく突出する。この突出部分が取出口リップ(10)と嵌合子(14)との係合をさまたげないようにするため、取出口(10)の周囲より一周り外周の位置にリップ(10)を突設したものである。

即ち、次に取出されるペーパーの先端部分がリップ(10)まで達せず、その内側に於て皿状嵌合子(14)におさえられるよう考案されている。

ペーパーを使い果せば、上述の手順により、新しいペーパーの一束を容器に収納すればよい。かくして本案容器は、液体含浸ペーパー類を、湿潤状態で保存し、又使用中もペーパーの含浸液を無駄に蒸発させることなく、常に好適状態に置くこ



とのできる取出容器である。

なお、第3図は本案容器を体裁より形成した1例である。

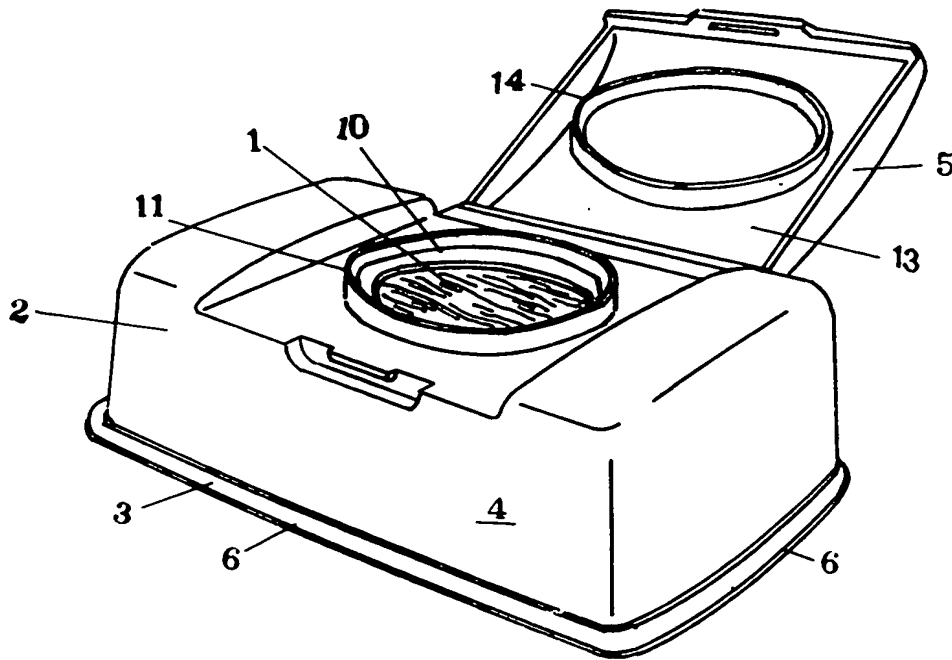
4. 図面の簡単な説明

第1図は本案ペーパー取出容器の斜視図、第2図は同断面図、第3図(イ)～(ロ)は体裁よく形成した試作品を示す。

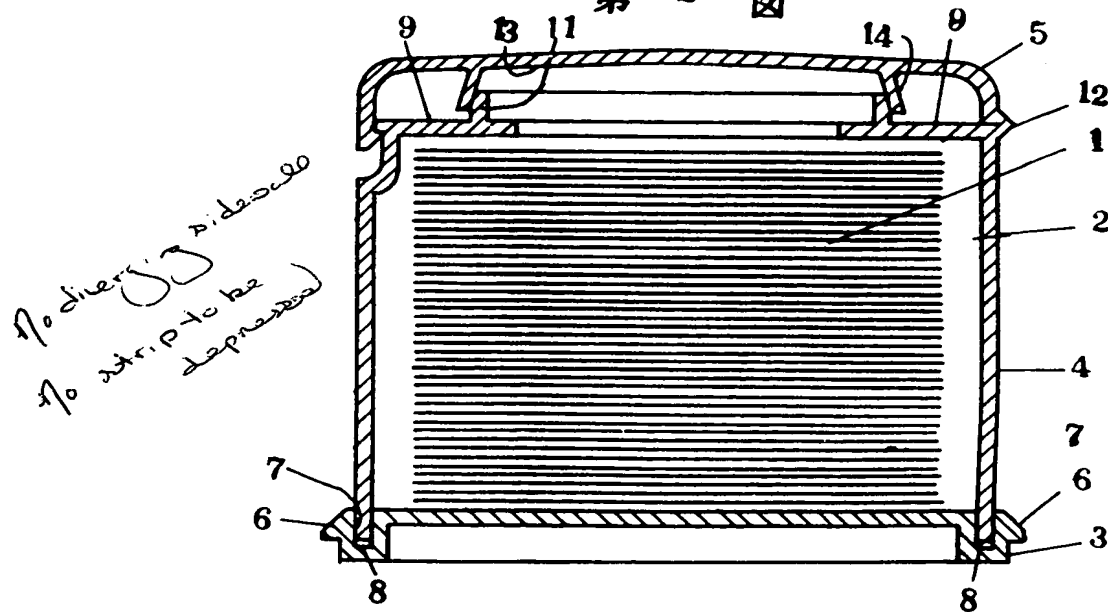
符号

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) ティッシュペーパー | (8) 下端(胴体) |
| (2) 取出容器 | (9) 天井板 |
| (3) 底板 | (10) 取出口 |
| (4) 容器胴体 | (11) リブ |
| (5) 上蓋 | (12) 胴体の上縁の1辺 |
| (6) 底板の周縁部 | (13) 蓋の内面 |
| (7) 溝 | (14) 嵌合子。 |

第 1 回



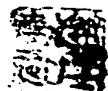
第 2 回



28043

出願人 鐘紡株式会社

代理人 弁理士 水口 孝一



手 続 補 正 書

昭和5/年 **適** 月 4 日

特 許 庁 長 官 シュ石 郎 殿

1. 事 件 の 表 示

昭和 5/ 三 新 案 登 録 第 110337 号

2. 考 案 の 名 称 浸 透 性 ペーパーの取込容器

3. 補正をする者

事件との関係 新 案 登 録 出 願 人

住 所

氏 名

京都墨田区堤通3丁目3番26号

鐘 紡 株 式 会 社
代表取締役 伊 藤 淳

4. 代 理 人

住 所

氏 名

大阪市北区野崎町76番地
関西フエルトビル

(6180)弁理士 水口 孝一

5. 補正命令の日付 昭和51年10月9日(発送日同10月26日)

6. 補正により増加する明の数

7. 補 正 の 対 象 (1) 明細書の「図面の簡単な説明」の欄及び

8. 補 正 の 内 容 「考案の詳細な説明」の欄、(2) 図面の番号

- (1) 明細書第6頁第6行目～第7行目
「第3図(1)～(11)は体裁よく形成した試作品を示す」とあるを抹消します。
- (2) 明細書第6頁第2行目～第3行目
「第3図は」とあるを「参考字真は」と訂正します。
- (3) 字真貼付した台紙に
「第3図」とあるを「参考字真」と訂正します。